

呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定（令和2年度版）について（報告）

1 総合戦略改定の趣旨

特色ある地域資源を活かした新たな魅力・価値の創造による雇用創出や子育て・子育てしやすい環境づくり、魅力的な住生活環境の創出などを通じて若年層の市内定着や出生数の増加を図り、人口減少を抑制することにより、将来にわたり豊かで活力あふれるまちづくりを推進するために平成28年3月に策定した「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」といいます。）について、次期長期総合計画と一体的に策定するため、その計画期間を令和2年度末まで延長するとともに、令和2年度当初予算を踏まえ改定しました。

2 令和2年度当初予算を反映したローリング

(1) 追加・拡充した事業（新規7事業，拡充3事業）

①働きやすさの向上（しごとづくり）

産業や消費を支える若い世代の定着等による更なる活性化を図るため、呉の特性（呉らしさ）を活かした雇用創出に積極的に取り組んでいきます。

- ・（新）農業基盤整備の推進（ほ場整備） 6,450万円
- ・（拡）企業立地の推進（呉市企業立地条例に基づく助成等） 7億円
- ・（拡）呉駅周辺地域総合開発の推進（呉駅周辺を起点としたスマートシティ※¹の実現に向けた取組の推進等） 4,500万円

②育てやすさの向上（ひとづくり）

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、子どもと子育て世代でにぎわうまちを創り出すため、子育て・子育てしやすい環境づくりに積極的に取り組んでいきます。

- ・（新）子育て支援手続きWeb※²（ウェブ）申請化 50万円
- ・（新）天応中学校の仮移転の解消 8,720万円
- ・（新）呉高等学校特別教室の空調設備の増設 2,420万円
- ・（拡）保育サービスの充実（病児・病後児保育事業の充実、保育士の人材確保等） 1億8,515万円

③暮らしやすさの向上（まちづくり）

多くの市民に呉市を定住の地として選択してもらうとともに、呉市への移住を促進し、多世代がにぎやかに暮らせるまちを創り出すため、魅力的な住生活環境の創出に積極的に取り組んでいきます。

- ・（新）子育て世帯を対象とした安芸灘大橋利用助成 700万円
- ・（新）情報通信格差解消のための光通信回線整備 4,980万円
- ・（新）目指せ！健康寿命日本一プロジェクト（健診の受診促進、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施） 2億3,450万円

※1 スマートシティ：P6参照 ※2 Web：P14参照

(2) ローリング後の事業数・事業費 (H27~R2)

- ・ローリングの結果, 計画期間中の概算事業費全体額は約 195 億円
- ・令和元年度末現在の執行額は約 157 億円

| 基本目標 | 事業数 | | | | | | 事業費(億円) | | 進捗状況 | |
|-----------|------|------|----|----|----|----|---------------|-------|----------------|----------------|
| | 追加事業 | 既存事業 | | | | 合計 | H27~R2 (①) | 内R2年度 | 内H27~R元年度 | |
| | | 拡充 | 継続 | 完了 | 小計 | | | | 執行額(億円) (②) | 全体進捗率 (②/①) |
| 働きやすさの向上 | 1 | 2 | 36 | 3 | 41 | 42 | 70.5 | 14.1 | 56.4 | 80.0% |
| 育てやすさの向上 | 3 | 1 | 16 | 2 | 19 | 22 | 49.8 | 9.6 | 40.2 | 80.7% |
| 暮らしやすさの向上 | 3 | 0 | 19 | 5 | 24 | 27 | 75.0 | 14.4 | 60.6 | 80.8% |
| 合計 | 7 | 3 | 71 | 10 | 84 | 91 | 195.3 | 38.1 | 157.2 | 80.5% |

3 重要業績評価指標 (KPI) の修正

【基本目標1】働きやすさの向上 (しごとづくり)

| ア 産業の競争力強化 | 修正前 | 修正後 | 修正理由 |
|---|---------|---------|----------------------------|
| (イ) ものづくり技術の高度化促進 (H27~R2) | | | |
| ・産業団地への新たな立地企業数 (累計) | 18 社 | 22 社 | 目標を達成したため。H27~R 元実績: 18 社 |
| (ウ) サービス産業の魅力向上 (H27~R2) | | | |
| ・新規出店件数・島しょ部における新サービス実施件数 (累計) | 83 件 | 86 件 | 目標を達成したため。H27~R 元実績: 83 件 |
| ・1人当たり観光消費額 | 6,370 円 | 9,390 円 | 令和元年実績から計算方法を変更するため |
| イ 人材の発掘・育成 | 修正前 | 修正後 | 修正理由 |
| (イ) ものづくり人材の育成 (H27~R2) | | | |
| ・創業支援事業計画・実践型地域雇用創造事業に基づく新規雇用者数・創業者数 (累計) | 855 人 | 1,068 人 | 目標を達成したため。H27~R 元実績: 964 人 |

【基本目標3】暮らしやすさの向上 (まちづくり)

| ア 総合的な定住サポート | 修正前 | 修正後 | 修正理由 |
|-----------------------------|---------|---------|------------------------------|
| (ア) 定住・移住サポート機能の強化 (H27~R2) | | | |
| ・定住サポートセンター問合せ件数 (累計) | 1,000 件 | 1,400 件 | 目標を達成したため。H27~R 元実績: 1,234 件 |
| イ 定住・移住促進 | 修正前 | 修正後 | 修正理由 |
| (イ) 空き家の利活用促進 (H27~R 元) | | | |
| ・空き家バンク登録物件の成約件数 | 110 件 | 150 件 | 目標を達成したため。H27~R 元実績: 124 件 |

4 目標達成状況等

<評価基準>

| 評価 | KPI指標の令和元年度末までの達成率 |
|----|---------------------|
| ◎ | 全ての項目で100%を達成している |
| ○ | 一つ以上の項目で100%を達成している |
| △ | 100%を達成した項目がない |
| — | 達成率が算出できないもの |

※総合戦略の計画期間は1年延長により6年とするが、計画策定時に設定した目標は5年間の目標であったことから、達成目標は100%を基準とする。

【基本目標1】働きやすさの向上(しごとづくり)

(1) 「呉らしさ」を活かした雇用創出の方向性

| 目標 | | | | | | | | | |
|--|--|----|----------------|----------------|------|------|-------------|----|-----|
| 指標 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| 20～30歳代の「仕事」理由の転出超過数 | 3分の2改善 (H25：△265→R2：△90) | 人 | 3分の1改善 △153 | 4分の1改善 △203 | △591 | △334 | △528 | — | — |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| — | <ul style="list-style-type: none"> 転出入者へのアンケート調査（任意）によると、20～30歳代の「仕事」理由の転入者は、1,347人と昨年の1,600人に比べて253人減少した。また、「仕事」理由の転出者は、1,875人と昨年の1,934人に比べて59人減少した。 20～30歳代全体では、転入者3,062人（前年比：△148人）、転出者4,227人（前年比：+68人）となっており、転出超過数は、前年度と比べ増加した。 他都市からの転入者は、昨年と比べて、広島市616人→590人（△26人）、東広島市214人→175人（△39人）、東京都132人→124人（△8人）など、合計で3,210人→3,062人と148人減少した。 他都市への転出者は、昨年と比べて、広島市1,024人→1,028人（+4人）、東広島市313人→336人（+23人）、神奈川県255人→321人（+66人）、長崎県122人→138人（+16人）など、合計で4,159人→4,227人と68人増加した。 他都市との転入転出状況は、広島市（△438人）、東広島市（△161人）、江田島市（+168人）、東京都（△161人）、神奈川県（△113人）などとなっている。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 女性や若者など誰もがチャレンジできるまちを目指し、起業・創業に向けた機運の醸成や支援を行うとともに、企業立地の推進等による雇用の創出を図る。 | | | | | | | | | |

(2) 具体的方策

ア 産業の競争力強化

(ア) 農水産品のブランド力向上

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|------|-----|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> 農水産品のブランド化推進（広カンラン，オニオコゼ，レモン，オリーブ等のブランド化推進等） 農水産品の販路拡大 農水産業を支える基盤の整備（漁場整備，農業基盤整備の推進等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①新たな販路開拓数（累計） | H27～R2：230 (H30年度改定で200から230に変更) | 件 | 113 | 52 | 34 | 36 | (10) | 235 | 102.2% |
| ②呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数 | H26：3 → R元：8 | 品 | — | — | — | — | 4 | — | — |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| ○ | <ul style="list-style-type: none"> 新たな販路開拓について，かきは令和元年度から生産者を中心とする協議会に事業を引き継いだ。令和元年度の呉産かきの取扱い飲食店は10件増加した。広カンランについては，天候不順による生産量の低下などの影響により，新たな販路の開拓には至らなかった。なお，令和2年3月からは，広甘藍生産組合に事業を引き継いだ。 レモンや広カンラン，オニオコゼ等の農水産品の生産量の増加とブランド化を推進した結果，呉の特産として認知する市民が50%を超える農水産品数は，前回調査（3品目）からレモンが増え4品目（みかん，ちりめんいりこ，かき，レモン）となったが，目標値には届かなかった。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 生産者，関係団体（農協，漁協），市などで構成する各協議会が主体となり，かきや広カンラン等のブランド化及び販路拡大を引き続き推進していく。 | | | | | | | | | |

(イ) ものづくり技術の高度化促進

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な企業誘致・留置活動の展開（企業立地の推進，本社機能の移転等促進，市内企業の設備投資促進等） ・新産業・新技術開発へのチャレンジ支援（産学官連携による新製品・新技術の開発支援，地域産業の活性化支援，医工連携の推進等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①産業団地への新たな立地企業数 (累計) | H27～R2：18 (令和元年度改定で10から18に変更) (令和2年度改定で22に変更) | 社 | 2 | 7 | 4 | 2 | 4 | 19 | 105.6% |
| ②新たな設備投資に伴う新規雇用従業員数 (累計) | H27～R2：240 | 人 | 30 | 54 | 32 | 71 | 27 | 214 | 89.2% |
| ③新製品・新技術開発支援件数 (累計) | H27～R2：80 (平成29年度改定で20から80に変更) | 件 | 18 | 18 | 21 | 9 | 8 | 74 | 92.5% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・産業団地への立地企業数について，令和元年度は4企業が立地し，令和元年度改定で上方修正した目標値を上回った。 ・新たな設備投資に伴う新規雇用従業員数は，苗代工業団地及び阿賀マリノポリス地区に立地した企業の新工場稼働に伴い増加している。 ・新製品・新技術開発支援件数は，産学連携スタート補助や地域産業活性化支援補助の活用により，増加している。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新たに取り組むサテライトオフィスの誘致を含め，更なる企業立地の促進や雇用の創出に取り組んでいく。 ・新製品・新技術開発支援については，事業者とくれ産業振興センターのコーディネーターが連携して，商品価値と販売力のあるビジネスプランを構築するとともに，新製品等の開発につながる支援を継続する。 | | | | | | | | | |

(ウ) サービス産業の魅力向上

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----------|-----------|-------|-------|--------------|----|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・都市ブランド力の向上（呉市中心部回遊性向上機能の整備（青山クラブの活用等），呉駅周辺地域総合開発の推進，日本遺産を活用した呉の魅力発信事業，観光プロモーションの展開等） ・魅力ある観光・商業環境の創出（商業施設等の活性化支援，周遊・滞在型観光の推進，観光資源のブラッシュアップ，インバウンドの推進，新たな観光推進体制の構築，大和ミュージアム・入船山記念館の魅力向上，呉港へのクルーズ客船誘致等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①新規出店件数・島しょ部における新サービス実施件数（累計） （ ）内は島しょ部における新サービス実施件数(内数) | H27～R2：83 (令和元年度改定で80から83に変更) (令和2年度改定で86に変更) | 件 | 28 (6) | 27 (3) | 18 | 7 | 3 | 83 | 100.0% |
| ②年間入込観光客数 | H26：308 → R2：340 | 万人 | 336 | 336 | 332 | 274 | R2.7 公表予定 | — | — |
| ③1人当たり観光消費額 | H26：6,061 → R2：6,370 (令和2年度改定で計算方法を変更し，9,390に変更) | 円 | 6,087 | 6,162 | 6,079 | 6,319 | R2.7 公表予定 | — | — |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・新規出店件数・島しょ部における新サービス実施件数については，累計で83件となり，令和元年度改定で上方修正した目標値を達成した。 ・平成30年の年間入込観光客数は，平成30年7月豪雨災害の影響のため274万人と大きく減少した。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新規出店については，より魅力的な店舗の出店を促進するため，空き店舗等を新たな方法で再生・活用して地域課題を解決するリノベーション^{※1}まちづくりと一体となった取組を推進する。 ・呉駅周辺を起点として，次世代モビリティ^{※2}導入に向けた調査・検証や，MaaS^{※3}導入に向けた環境整備，アーバンデザインセンター^{※4}設立に向けた準備など，スマートシティ^{※5}の実現に向けた取組を推進し，新たな魅力ある都市を創造していく。 ・主要観光施設である大和ミュージアムのリニューアルや呉港へのクルーズ客船の誘致を検討するなど，リピーターを含めた観光客と観光消費額の増加を図る。 ・観光推進のための新たな体制の構築や観光振興計画の策定により，ブランディングとマーケティングに基づいて，地域全体の所得を向上させることができるような観光の振興を推進する。 | | | | | | | | | |

※1 リノベーション：建物が持つ元々の性能以上に新たな付加価値を付けて再生させること。

※2 次世代モビリティ：AI技術等を活用した自動運転，通信機能等を備えた移動手段

※3 MaaS：Mobility as a Serviceの略。バスや鉄道等の交通手段の検索・予約・決済を一連のサービスとして捉える考え方

※4 アーバンデザインセンター：「公・民・学」が連携してまちづくりの課題解決に取り組む組織

※5 スマートシティ：都市や地域が抱える様々な課題に対して，人工知能などの新技術を活用して計画，整備，管理・運営等のマネジメントが行われた持続可能な都市・地区

(エ) 多様な事業者との連携による商品化等の推進

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|
| ・ 特色ある地域資源を活かした新たなプロジェクトの推進（呉市産酒米の増産推進，【再掲】農水産品のブランド化推進等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①多様な事業者との連携による商品化等の品目数（累計） | H27～R2：5 | 件 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 40.0% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| △ | <p>・ 酒米，広カンラン，オリーブ，レモン，かきの5品目について，多様な事業者との連携による商品化等を目指している。平成29年度までに呉市産酒米の増産を行い，活用する酒造メーカーを2蔵から3蔵へ増やすとともに，広カンランの規格外品を使った加工品の商品化（2社）を行った。</p> | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| ・ オリーブ，レモン，かきについて，生産者と加工業者や販売業者と連携し取組を推進する。 | | | | | | | | | |

イ 人材の発掘・育成

(ア) 新規農業・漁業就業者の支援

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|
| ・ 新規農業・漁業就業者支援（新規就業者の着業・定着支援等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| 新規農業・漁業就業者数（累計） | H27～R2：30 | 人 | 4 | 6 | 5 | 1 | 0 | 16 | 53.3% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| △ | <p>・ 新規農業就業者は，農地の確保ができない，技術習得に一定期間を要するなど，短期間での安定した収入の確保が難しいこと，新規漁業就業者は，近年の漁獲量減少により，令和元年度はいずれの新規就業者もなかった。</p> | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <p>・ 農業については，生産から販売まで総合的に支援できるよう関係機関と連携した支援体制を強化する。</p> <p>・ 新規漁業就業者の増加や定着を図るために，養殖や先端技術の導入などによる収入の安定化・増加に資する取組を進めていく。</p> | | | | | | | | | |

(イ) ものづくり人材の育成

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|--|---|----|-----|-----|-----|-----|--------------|-----|--------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・創業へのチャレンジ支援・雇用拡大（創業支援の充実，起業家支援事業，地域雇用の創造支援（雇用拡大セミナー等），呉の産業マイスターの表彰等） ・中小企業人材育成事業 | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①創業支援事業計画・実践型地域雇用創造事業に基づく新規雇用者数・創業者数（累計） | H27～R2：855 （令和元年度改定で735から855に変更） （令和2年度改定で1,068に変更） | 人 | 281 | 242 | 282 | 159 | R2.7 公表予定 | 964 | 112.7% | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用者数・創業者数は，企業向けのセミナーを地域や時代に即したメニューに変更したことや，各セミナー等の開催などにより，累計が964件となり目標を上回った。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の活性化と多様化を図るため，市役所・民間企業・関係団体など地域全体で，創業・起業を促進する機運を醸成するとともに，創業後の資金調達や経営などを支援する体制の充実を図っていく。 ・人材不足など地域課題を解決するため，多様な形態での働き方に対する意識醸成を行い，適切な人材マッチングが行われるよう促していく。 | | | | | | | | | | |

(ウ) サービス産業人材の育成

| 主な事業 | | | | | | | | | | | |
|--|--|----|----------------|-----|-----|-----|----|----|-----|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の活用（奨学金制度による福祉人材（介護・保育）の確保・養成の推進，医療人材（看護）確保・養成奨学金の創設の検討，福祉人材の育成，障害者就労支援体制の充実等） 【再掲】創業へのチャレンジ支援・雇用拡大 リノベーションまちづくり事業 | | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | | |
| ①福祉医療人材（介護・看護・保育）確保・養成奨学金制度の創設 | | | H29制度創設（介護・保育） | | | | | | — | — | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | | |
| △ | <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に福祉人材（介護・保育）の確保のために社会福祉施設等が行う奨学金に対する補助制度を創設した。 3つの社会福祉施設が奨学金制度を創設している。現在，1施設において5人に奨学金を貸し付けている。 | | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 看護の奨学金制度について，地域ニーズや既存の奨学金制度の調査・研究を行い今後の方向性を検討するとともに，介護・保育の奨学金補助制度等については，社会福祉施設及び大学への周知を図る。 空き店舗や古民家などの遊休資産のリノベーション[※]等を行う民間のまちづくり事業を連鎖的に進めるため，人材発掘と併せて資金調達を支援していく。 | | | | | | | | | | | |

※ リノベーション：建物が持つ元々の性能以上に新たな付加価値を付けて再生させること。

ウ 情報発信の強化

(ア) 呉らしさの発信

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|--|---|----|-----|-----|-----|-----|--------------|----|-----|--|
| ・ 呉の魅力発信（呉の産業PR事業の推進，定住・移住情報の発信等） | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①呉市内に就職した地元高校生の割合 | H26：60 → R2：65 | % | 55 | 53 | 61 | 57 | R2.6 公表予定 | — | — | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| — | <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に呉市内に就職した地元高校生の割合は57%と，前年（61%）と比較して4ポイント下がった。 公式キャラクター「呉氏」による，関連動画再生回数は累計100万7千回，キャラクターグッズは29社から121種類（令和2年3月末時点）が発売され，呉市の魅力発信につながっている。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市民の呉市への愛着・誇りの醸成と関係・交流人口の増加を図るため，公式キャラクター呉氏の発信力を積極的に活用し，SNS※など世界とつながる情報発信ツールを利用して，呉の認知度・魅力度向上に取り組んでいく。 「高校生と保護者のための企業ガイダンス」の開催を支援し，参加企業の概要等の紹介を行うとともに，呉市中小企業・小規模企業振興会議における議論を踏まえた中小企業等振興策として，優れた技術や製品を有する地元企業の魅力を発信していくことにより，地元企業への理解と就職を促進していく。 | | | | | | | | | | |

※ SNS：Social Networking Serviceの略：登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。

【基本目標2】 育てやすさの向上(ひとづくり)

(1) 子育て・子育てしやすい環境づくりの方向性

| 目標 | | | | | | | | | | |
|--|---|----|-------|-------|-------|----------|----------|----|-----|--|
| 指標 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| 年間出生者数 | H25 : 1,717 → R2 : 1,800 | 人 | 1,588 | 1,506 | 1,406 | 公表 未定 | 公表 未定 | — | — | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| — | ・年間出生者数は、若年女性の減少や未婚化・晩婚化の影響により毎年減少している。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援をするとともに、子育て環境や教育環境の充実に向けた取組を進める。 | | | | | | | | | | |

(2) 具体的方策

ア 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援

(ア) 結婚の応援

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|--------|--|
| ・結婚支援の推進（結婚支援（婚活事業の助成等）） | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①結婚支援事業参加者のカップル 成立数（累計） | H27～R2 : 111 (平成30年度改定で63から97に変更) (令和元年度改定で111に変更) | 組 | 14 | 22 | 29 | 34 | 15 | 114 | 102.7% | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| ◎ | ・平成28年度から民間事業者、団体等が主体となる取組を支援することで、若者のニーズにあったセミナーの実施や参加者へのきめ細やかなフォローが可能となり、目標値を達成した。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| ・未婚化・晩婚化が進展している中、出会いの場の提供に限らず、若年層が結婚したいと思える環境づくりに取り組んでいく。 ・結婚事業に取り組む民間事業者等への助成事業は、イベントのノウハウの蓄積や機運の醸成が図られたことから令和元年度をもって終了とした。 | | | | | | | | | | |

(イ) 妊娠・出産サポートの充実

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|--|
| ・妊娠・出産サポートの充実（妊産婦の健康診査・保健指導等の充実（妊婦歯科健康診査，風しん予防接種助成等），不妊治療医療費の助成等） | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①妊婦に対する子育て支援プランの作成・保健指導実施率（H28から実施） | R2：100 | % | / | 100 | 100 | 100 | 100 | — | — | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| — | ・子育て世代包括支援センター「えがお」において，全ての妊婦に妊娠・出産に向けた支援情報を提供し，妊娠中の生活などについて保健指導を実施しており，妊娠時からサポートするきっかけづくりができています。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 母子健康手帳交付時に，助産師や保健師との面接において，個々の妊産婦のニーズを把握し，妊娠・出産・産後・子育て期間における必要な支援プランの提案を行い，相談や支援を継続することで，妊娠から子育てまでを切れ目なく包括的にサポートする。 晩婚化の進展により不妊治療やハイリスク妊婦など新たな課題が生じており，現状の把握と分析を行い支援体制の充実を図っていく。 | | | | | | | | | | |

(ウ) 子どもの健やかな育ちの応援

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|--|---|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|--|
| ・乳幼児の健康づくり支援や集いの場の充実（乳幼児の健康診査，遊育空間の整備（低年齢児用遊具の設置），地域子育て支援拠点 [※] の充実，子どもの居場所づくり），男性の子育て参加の促進，子育て支援アプリの導入 | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①地域子育て支援拠点数（累計） | H26：9 → R2：12（3増） | 箇所 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 66.7% | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| △ | <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児と保護者の集いの場を充実させるため，ニーズ調査を基に地域的なバランスを考慮しながら，地域子育て支援拠点施設の設置について，事業者に働き掛けを行っている。 令和元年度の増設により，子ども子育て支援事業計画に定める7提供区域の全てに支援拠点が開設された。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 認定こども園へ移行予定の教育・保育施設等へ働き掛けを行い，地域子育て支援拠点施設の実施施設の増設に取り組む。 地域の子どもたちが安心して過ごせるよう食事の提供や学習の支援など，子どもの居場所づくりに取り組んでいる団体を支援し，地域全体で子育てを支援する環境づくりを市全体へ展開していく。 | | | | | | | | | | |

※ 地域子育て支援拠点：くれくれ・ば，ひろひろ・ばや特定の保育所などで，乳幼児のいる子育て中の親子が相互交流や悩みの相談等ができる場所

(工) 子育て世代包括支援センターの整備

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----|-----|-----|-----|------|-------|-------|
| ・子育て世代包括支援センターによる妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援（総合相談，関係団体との連絡調整等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①子育て中にストレスを感じる親の割合 | H25：87.4 → R元：82 | % | — | — | — | — | 82.6 | — | — |
| ②子育て世代包括支援センターにおける相談件数(H28から)（累計） | H28～R2：1,800 (平成30年度改定で800から1,800に変更) | 件 | | 230 | 550 | 531 | 445 | 1,756 | 97.6% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| △ | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中にストレスを感じる親の割合は，令和元年度調査では目標値にわずかに届かなかった。 ・平成28年10月に開設した子育て世代包括支援センター「えがお」で，相談業務，子育てマイプランの提案，産前・産後サポート事業，産後ケア事業を実施。妊娠中から個別でのきめ細かな支援を行った。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| ・妊娠から子育てまでの包括的な支援の充実に伴い，妊産婦からの相談件数や訪問のニーズは増加している。妊産婦やその家族の不安や負担を軽減し，子育てしやすい環境を整えるため，支援体制の充実を図っていく。 | | | | | | | | | |

イ 子育て支援

(ア) 子育て家庭の応援

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|--|--|----|-------|-------|-------|-------|-------|----|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターの充実（24時間サポート体制の推進等） ・保育サービスの充実（病児・病後児保育，認可保育施設等への支援の充実，保育士の人材確保等） ・放課後児童会の充実（開設時間の延長，民間放課後児童会の充実等） ・乳幼児等医療費助成の充実（通院：就学前まで→小学6年生まで，入院：小学6年生まで→中学3年生まで） ・子育て支援手続きWeb[※]（ウェブ）申請化 | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①ファミリー・サポート・センター 利用件数 | H26：2,107 → R2：2,300 | 件 | 2,032 | 2,257 | 1,958 | 1,773 | 2,107 | — | — |
| ②病児・病後児保育実施施設数 (累計) | H26：2 → R2：4 (2増) | 箇所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| △ | <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センター利用件数は，平成30年7月豪雨災害の影響等により利用件数が減少した平成30年度から復調した。 ・病児・病後児保育の実施施設については，医師会，医療機関，教育・保育施設等と実施場所等について協議を行っているが保育人材や保育スペースの確保が難しく増設に至っていない。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターは，公的支援の隙間を埋める役割を果たしており，気軽に利用できる機運を高めて，地域で子育て世帯を支える環境づくりを更に進めていく。 ・子育てと仕事の両立を支援するため，病氣中又は病後の回復期にある小学校6年生までの児童を，病院・保育所等に付設された専用スペースで一時的に預かる病児・病後児保育実施施設の拡充を図っていく。 | | | | | | | | | |

※Web：インターネット上で用いられている，文字や画像などを一体化した文書の公開・閲覧システムの一つ

ウ 教育環境の充実

(ア) 小中学校教育の充実

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|--|---|----|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----|------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の更なる推進，豊かな感性と郷土を愛する心を育む教育活動の推進（ふるさと子ども夢実現事業，「ものづくり」体験事業の推進等） ・教育環境の充実（小中学校普通教室への空調設備の設置，タブレットを活用した教育の推進，天応中学校の仮移転の解消等） ・夢へのチャレンジ応援事業（全国規模の大会等において優れた成績を収めた生徒への報奨金交付等） | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合 | 小学生 H26：92.9 → R2：95 中学生 H26：78.4 → R2：80 | % | 小学生 93.4 中学生 78.8 | 小学生 91.6 中学生 76.1 | 小学生 93.4 中学生 78.6 | 小学生 93.7 中学生 78.8 | 小学生 92.6 中学生 77.8 | — | — | |
| ②呉市（公共）への貢献意欲がある中学生の割合 | H26：37 → R2：75 | % | 42.7 | 66.7 | 64 | 51.9 | 49.0 | — | — | |
| ③小中学校普通教室への空調設備設置率 | H26：0.4 → R元：100 | % | — (H29以降設置) | | 小学校 0.6 中学校 100 | 小学校 100 中学校 100 | H30 事業 完了 | — | 100% | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合」については，小学生・中学生ともに，前年を下回った。 ※県内平均値（小学生：90.3%，中学生：75.5%） ・小中学校普通教室への空調設備の設置は平成30年度に完了 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域のために自分が何ができるかを考えることができる児童・生徒を育成するため，地域と一体となった教育活動の充実を図る。 | | | | | | | | | | |

(イ) 高等学校教育の充実

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|------|------|-------------|----|-----|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教育の充実（呉高等学校施設の耐震化（完了）・空調設備の設置等（完了）・教育備品のICT化の推進，呉高等学校特別教室等への空調設備の増設） ・【再掲】夢へのチャレンジ応援事業（全国規模の大会等において優れた成績を収めた生徒への報奨金交付等） | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①呉高等学校を志望する動機となった目標を達成した生徒の割合 | H26：83.2 → R2：90 | % | 87 | 94 | 92.1 | 90.2 | 94.1 | — | — | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| — | ・進路実現に向けた学力の向上や地域・社会に貢献する人材育成の指導を充実させたことにより，多くの生徒が目標を達成していると考えられる。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| ・幅広い選択科目の中から生徒が自身の進路目標に応じて，履修科目を選択し学ぶことができるという総合学科の特色を活かして，生徒の個性を生かした主体的・対話的で深い学びを創出し，希望する進路を実現できる教育内容を提供していく。 | | | | | | | | | | |

【基本目標3】暮らしやすさの向上(まちづくり)

(1) 魅力的な住生活環境創出の方向性

| 目標 | | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----|-----|-----|-----|------|----|-----|--|
| 指標 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| 呉市を住みよいと感じる市民の割合 | H26 : 70% → R元 : 80% | % | — | — | — | — | 68.2 | — | — | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| △ | ・呉市を住みよいと感じる市民の割合は、前回調査を1.8ポイント下回り、目標値に11.8ポイント届かなかった。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市内外の新婚・子育て世帯や定住・移住希望者が、住宅を買いたい、借りたいと思える環境を整えるため、交通や買い物等、生活の便利な地域にマンションや宅地などの分譲・賃貸の流通促進を図っていく。 ・呉市地域公共交通網形成計画を策定し、まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの形成や地域の移動手段の維持・確保など持続可能な公共交通を官民一体で目指す。 ・特定健診・がん検診の受診促進や運動習慣の更なる定着、データヘルス[※]による効果的な保健事業と介護予防の一体的な実施など、市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる環境を整える。 | | | | | | | | | | |

※データヘルス：健康・医療情報等を分析・活用して行う効果的かつ効率的な保健事業

(2) 具体的方策

ア 総合的な定住サポート

(ア) 定住・移住サポート機能の強化

| 主な事業 | | | | | | | | | | |
|--|---|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・定住サポートセンターの充実 (【再掲】定住・移住情報の発信，民間事業者・関係機関との連携強化，定住・移住後のサポートの充実等) | | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 | |
| ①定住サポートセンター問合せ件数 (累計) | H27～R2 : 1,000 (令和2年度改定で1,400に変更) | 件 | 173 | 354 | 268 | 171 | 268 | 1,234 | 123.4% | |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | | |
| ◎ | ・平成30年度は豪雨災害の影響による空き家バンクの運用を一定期間停止したことにより、件数が減少したが、令和元年度は災害前の状況に戻り、目標を上回った。 | | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者が安心して他都市から移住できるよう、希望者の目線に立った移住関連情報の提供や、移住先での情報交換・交流ができる場の提供，移住者同士をつなぐ交流ネットワークの構築など、きめ細やかにニーズに対応するための環境の充実を図っていく。 | | | | | | | | | | |

イ 定住・移住促進

(ア) 定住・移住支援

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|-----------|------------|--------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・新婚・子育て世帯の定住支援（中古住宅取得支援，親世帯との近居支援） ・移住希望者の住宅取得支援（中古住宅取得支援，新婚・子育て世帯支援，親世帯との近居支援，島しょ部移住支援等） ・島しょ部地域等への定住・移住促進（情報通信格差解消のための光通信回線整備，子育て世帯を対象とした安芸灘大橋利用助成） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①若年層の住宅取得件数（累計） | H28～R2：200 | 件 | | 27 | 28 | 26 | 42 | 123 | 61.5% |
| ②移住希望者の住宅取得件数（累計） | H28～R2：80 | 件 | | 22 | 15 | 18 | 13 | 68 | 85.0% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| △ | <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の若年層の住宅取得助成の申請件数は，前年と比較して約6割伸びた。内，島しょ部での住宅取得は3件あった。 ・令和元年度の移住希望者の住宅取得件数13件のうち，県外からの住宅取得が4件ある。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者目線の情報提供や移住者同士をつなぐ交流ネットワークづくりなど，きめ細やかなサポートの充実を図る。 ・見学ツアーや宿泊助成など各種支援事業の充実を図り，相談から移住につなげていく。 | | | | | | | | | |

(イ) 空き家の利活用促進

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|--------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの充実（空き家実態調査（完了），所有者意向調査（完了），空き家バンクへの登録促進） ・空き家の利活用支援（移住促進施設整備の支援（完了），学生シェアハウス支援（完了），空き家家財道具等処分支援等，【再掲】新婚・子育て世帯の定住支援，【再掲】移住希望者の住宅取得支援） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①空き家バンク登録物件の成約件数 (累計) | H27～R2：110 (平成30年度改定で70から100に変更) (令和元年度改定で110に変更) (令和2年度改定で150に変更) | 件 | 12 | 19 | 31 | 31 | 31 | 124 | 112.7% |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク登録物件数及び利用者登録数（買い手・借り手）の増加により，成約件数は順調に伸び，令和元年度に上方修正した目標値を上回った。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・既存住宅の流通と空き家の利活用を促進するとともに，移住希望者向けの支援制度や移住に際して必要となる情報を市内外に発信することで，呉市へ住みたい，住み続けたいという方のニーズに応じた住生活環境の実現を図っていく。 | | | | | | | | | |

ウ 生活環境の充実

(ア) 健康寿命の延伸

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|--|--|----|--------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------|----|----|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみの健康づくりの推進（地域総合チーム医療の推進，地域包括ケアシステムの推進，スポーツを通じた健康づくり等） ・呉市版生涯活躍のまち（CCRC）の検討（完了） ・目指せ！健康寿命日本一プロジェクト（健診の受診促進，高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①平均寿命の増加分を上回る健康寿命 ^{※1} の増加 （平均寿命－健康寿命） | （平均寿命－健康寿命） 男：1.09年（H25） 女：2.56年（H25） | 年 | 男： 0.94 女： 2.34 | 男： 1.09 女： 2.55 | 男： 1.01 女： 2.43 | R 2.9 公表予定 | — | — | — |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| — | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の呉市の健康寿命と平均寿命との差は，男性：1.01年，女性：2.43年となっている。平成25年度と比較すると男女とも健康寿命と平均寿命との差が縮小されている。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる環境を整えるため，特定健診・がん検診の受診促進や運動習慣の定着を図るとともに，データヘルスによる効果的な保健事業と介護予防を一体的に実施していく。 ・高齢者が住み慣れた地域で生きがいや役割を持って生活することができるよう，自ら積極的に介護予防に取り組む環境を整えていく。 ・認知症などの支援や介護が必要な方及びその家族の生活の質を維持・向上させるため，地域全体で支援する地域包括ケアシステム^{※2}などの医療・介護事業者等の多職種が連携する体制を強化・充実していく。 | | | | | | | | | |

※1 健康寿命：日常生活動作が自立している期間の平均。介護保険の要介護度2～5を自立していない期間として算定

※2 地域包括ケアシステム：医療，介護，予防，住まい，生活支援などのサービスが継続的・一体的に提供され，住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる地域の支援体制

(イ) 地域生活拠点の機能充実

| 主な事業 | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|-----|-----|-----|------|----|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域協働によるまちづくりの推進（ゆめづくり地域協働プログラムに基づく自主的で自立した地域活動の支援，地域おこし協力隊の活用，子どもまちづくり事業等） ・公共交通ネットワークの維持・確保（公共交通の運行支援等） | | | | | | | | | |
| 目標 | | | | | | | | | |
| 項目 | 目標 | 単位 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | 累計 | 達成率 |
| ①まちづくり委員会等が取り組む新たな課題解決への取組件数（累計） | H27～R2：20 | 件 | 6 | 4 | 1 | 7 | 0 | 18 | 90.0% |
| ②公共交通に対する市民の満足度 | H26：16.2 → R元：25 | % | — | — | — | — | 17.6 | — | — |
| 評価 | 現状 | | | | | | | | |
| △ | <ul style="list-style-type: none"> ・第4次呉市市民協働推進基本計画に基づき，地域まちづくり計画の改定と地域の特色ある取組を支援する。 ・公共交通に対する市民の満足度については，17.6%と前回調査（16.2%）を1.4ポイント上回ったものの，目標値には7.4ポイント届かなかった。 | | | | | | | | |
| 令和2年度以降の方向性 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的を持ってまちづくり活動を行う個人・団体が持つ情報や知識を活かすための連携を促進するとともに，地域が希望するまちづくりが実現できるよう，引き続き，地域自らが企画・立案をし，実施する特色ある取組を支援していく。 ・公共交通体系の再編や基幹バス・生活バス路線の運行支援，自家用有償運送等の地域主導型交通サービスの運行の検討，さらに次世代モビリティ^{※1}やM a a S^{※2}など先端技術の導入等により，将来にわたり持続可能な交通体系を維持していく。 | | | | | | | | | |

※1 次世代モビリティ：A I 技術等を活用した自動運転，通信機能等を備えた移動手段

※2 M a a S：Mobility as a Serviceの略。バスや鉄道等の交通手段の検索・予約・決済を一連のサービスとして捉える考え方